

つかさどる人の NEWS

NO.28

2012.7 発行

(公財)日本生態系協会
グランドデザイン総合研究所

〒171-0021 東京都豊島区西池袋2-30-20 音羽ビル
tel.03-5951-0244 <http://www.ecosys.or.jp>



“世界にただひとつ”のまちづくり

“世界にただひとつ”の
懐かしく美しい風景
(広島県福山市鞆の浦)

1992年の「国連環境開発会議(地球サミット)」は、今日に至る地球環境の保護や持続可能な開発の考え方に大きな影響を与えました。それから20年が経過した本年、同じくリオデジャネイロにおいて「国連持続可能な開発会議(リオ+20)」が開催されました。

この会議の大きなポイントのひとつが、自然の経済価値の定量評価と経済システムへの組み込みです。会議では、国連環境計画(UNEP)金融イニシアティブ(FI)が、金融機関が生態系への配慮促進を約束する「自然資本宣言」を打ち出したほか、成果として、経済成長と環境保全を両立させる「グリーン経済」が持続可能な発展のための重要な手段であることを盛り込んだ「我々の求める未来」を採択しています。

「健全な生態系があってはじめて持続可能な社会・経済が成り立つ」ということは、もはや世界の常識であり、持続可

能な経済成長の基盤となる自然の保全・再生への投資や経済システムへの組み込みに、政府・行政・企業等が早急に取り組む必要性が指摘されています。

持続可能な地域づくりの基盤となる自然は、どこかにまわってあれば良いというものではありません。自然には地域特性があり、どこの地域の自然も“世界でその地域だけ”にしかない財産です。われわれの暮らしや文化は、その地域独自の自然の上に成り立っているからこそ、多様で独自性をもっています。しかし、その経済価値の大きさは未だにきちんと評価されていないのが現状です。“世界にただひとつ”しかない日本各市町村の自然の経済価値を見極め、守り、地域の歴史・文化との調和をはかりながら活かしていくことこそ、将来世代に残すべき持続可能な美しいまちづくりの基本なのです。

美しいまちづくりの極意

“世界にただひとつ”の美しい地域づくりのためには、大きく2つのおさえるべきポイントがあります。ひとつは、地域の住民一人ひとりが美しさへの意識を持つことです。外出する際に服装を整えたり化粧をするように、地域の住民一人ひとり、一軒一軒が、自分たちはまちの一部であり、まちの美しさをつくるのは自分達であることを意識する

ことが重要です。

もうひとつは、行政が地域づくりに明確なビジョンを持つことです。50年先、100年先の長期的な展望のもと、どのような地域づくりを目指すのか、基盤としての地域の自然と伝統をどう保全・再生していくのか、将来ビジョンとしての地域のグランドデザインを明確に持っていることが必要です。



▲グランドデザインに位置付けられ守られている原生的な熱帯雲霧林（コスタリカ・ブラウリオカージョ国立公園）

エコツーリズム先進国 コスタリカのグランドデザイン

生物の多様性が高くエコツーリズム先進国として知られている中米・コスタリカ共和国。自然の保護・再生や、種や遺伝子の保全をはかる国策＝グランドデザインを打ち出すとともに、豊かな自然を活かした産業としてのエコツーリズムについても、グランドデザインを実現する方策のひとつとして推進しています。その結果、人口増加や農地拡大などで1980年代後半には国土の約20%にまで減少していた自然が、現在では約50%にまで回復しています。将来的には約70%まで再生させるビジョンを掲げています。

このような、国が自ら自然を大切なものとして守り再生しようという姿勢は、自然大国コスタリカの確かなイメージとして発信され、世界中から来訪者をひきつけ、大きく経済を支えています。



▲コスタリカの森の保全状況
国土に占める森林面積は、2005 年の 44.9% から 2010 年（上図）に 52.4%に増加しています。出典：コスタリカ環境エネルギー・通信省（MINAET）HP

グランドデザインの実現と自然資本への投資

地域のグランドデザインを実現していくためには、地域の自然を“生態系サービス”の視点からとらえていくことも重要です。われわれが自然環境からを受けている様々な恩恵を“生態系サービス”と言いますが、これまでは当たり前のこととしてとらえられ、経済的な価値として十分な評価がされてきませんでした。

しかし、2010年の生物多様性条約COP10においても、“生態系サービス”の経済的な価値を評価する研究や議論が進みました。

自然環境は我々の経済・社会を支える「自然資本」であ

り、2011年2月に発表されたUNEP(国連環境計画)の「グリーンエコノミー報告書」では、世界のGDP(国内総生産)の2%を自然資本に投資すれば、自然を食いつぶさずに経済成長もできる持続可能な社会の実現が可能であるとしています。

自然環境の価値を経済的に評価し、その保全・再生・活用のために「投資」していくことは持続可能な開発に不可欠であり、今後、欧州を中心に、自然資本の定量評価と経済システムへの取り組みが進むと考えられます。



▲「グリーンエコノミー 報告書」
(UNEP：国連環境計画) 自然資本への投資の重要性を報告しています

◀一軒一軒の美しさへの意識と地域全体でのビジョンが美しい地域づくりにつながり、エコツーリズムなど地域振興のための舞台となります
(左：ドイツ・テュービンゲン、左下：富山県五箇山)



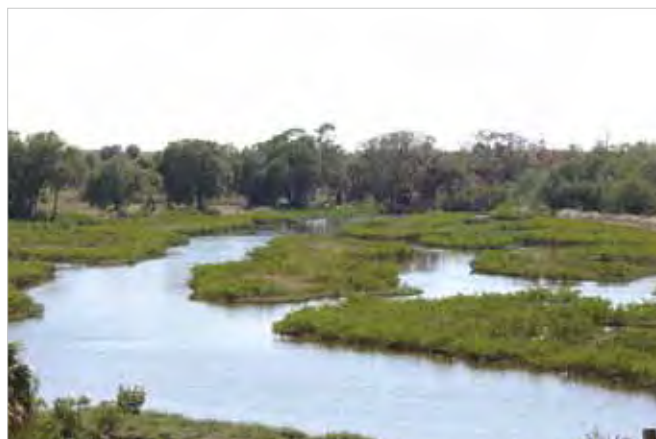
近年、日本全国はもとより世界中で取り組みが広がっている「エコツーリズム」は、自然と歴史・文化の保全・活用と地域産業（観光業、農業等）の振興を調和させる、持続可能な地域づくり、ひいてはグランドデザイン実現のための有効な手法のひとつです。

日本生態系協会は、こうしたエコツーリズムの考え方に基づく地域づくりを各地で実践しているほか、自然を基盤にその保全・活用を生態系サービスの観点から地域産業と結びつけ、地域づくりに活かす、“世界にただひとつ”の美しいまちづくりを提案しています。わがまちの自然を舞台に、その地域にしかない唯一無二の魅力を組み込んだ“グランドデザイン”を考えてみませんか？ 私たちの協会がお手伝いします。

おいしい水や空気、海や山の豊かな幸、豊かな自然を活かした観光など、健全な生態系がもたらす様々な自然の恵みを経済価値に換算し、公共事業を行う際の採択や予算配分の基準として取り入れる試みがフロリダ州で始まっています。

人工的な構造物の整備を中心とする従来の公共事業は、建設後も長期にわたって維持管理費が発生するため、自治体の財政が逼迫する要因となっています。フロリダ州では、自然環境を持続可能な社会を支える基盤(グリーン・インフラストラクチャー)として捉え、1963年から良好な自然地の買い取りを積極的に進めています。これまでに州の総面積の11%に相当する約156万haが公有地化され、自然が持つ水質浄化や洪水調節などの機能を活かした湿地の再生が行われるなど、自然再生が重要な公共事業として位置づけられています。

自然再生が行われた箇所は、エコツアーや環境学習の拠点としても活用され、豊かな自然を求めて国内外から多くの人が訪れるなど、地域の重要な収入源となっています。また、豊かな自然の存在が、周辺の不動産価値を高め、結果として地域の雇用を生み出す新たな企業の進出にもつながるなど、地域に様々な経済効果をもたらしています。



▲近隣にある自然の湿地をモデルに、変化に富んだ水際を再生した箇所(上)、湿地の周囲では野生のトキが再び舞い降り、エサをついばむ姿が見られます(下)

お知らせ

国際フォーラム「コウノトリ・トキの舞う魅力的な地域づくり」

日時：2012年10月31日(水) 13:00～18:00 会場：津田ホール(JR千駄ヶ谷駅徒歩約1分)

自然環境を生活や産業の社会基盤として捉え、将来にわたって健全な状態に保つことは、いまや持続可能な自治体経営を実現するうえで不可欠な視点となっています。

今回は、自然環境の保全とその持続的な利用の両立を通じて、地域経済の活性化に取り組む国内外の自治体関係者をお招きし、取り組みが地域にもたらした効果などについて、事例を交えつつご紹介いただく予定です。

※詳細は次号でお知らせする予定です。



▲農地に舞い降りたコウノトリ。人と自然が共存する地域の目指すべき姿がここにはあります(兵庫県豊岡市)

ランドデザイン総合研究所は、自然と共存する美しいまちづくりの方法を、行政や議会、市民に提案するシンクタンクです。

お気軽にご連絡ください。

(公財) 日本生態系協会

ランドデザイン総合研究所 tel. 03-5951-0244

■50年先、100年先の世界にひとつのランドデザイン作成

■海外の先進事例に関する情報提供

■国の事業を活用した自然と共存する持続可能なまちづくりの提案

■海外視察ツアーの企画・コーディネート

■行政職員や市民向けの研修会や講演会への講師派遣

■あなたのまちをテーマとした国際シンポジウムなどの企画・開催